

1 事業名

平成30年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業  
「親子で遊ぼう！～ダンボールと雪遊び～」

2 趣旨（事業の目的）

親子で遊びながら、幼児期に身に付けさせたい36の基本的な動きを体験し、体力・運動能力の基礎を培うとともに、幼児教育の重要性についての理解を深め、親子のふれあいや参加者同士のコミュニケーションを図る。

3 期日 平成31年2月2日（土）～3日（日）

4 参加者 16組35名  
（盛岡市・滝沢市の幼稚園・保育園の年長児とその保護者）

5 内容

（1）日程

2月2日 (土)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
					受付	開会行事	親子でスプレイクイ	荷物移動食	スノーアドベンチャー（スノーシュー）体験 & 自由遊び	着替・休憩	おやつタイム	親プロ（幼児教育） 子プロ（忍者大作戦）	集合・連絡	夕食	秘密基地づくりの相談	入浴・就寝	就寝準備	就寝
2月3日 (日)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
		起床	つどい	荷物整理食	朝所点検	移動	親子で秘密基地づくり（ダンボールを使って）	秘密基地でお弁当	閉会行事									

（2）指導者

講師	聖徳大学大学院	教授	篠原孝子氏
運営者	国立岩手山青少年交流の家	主任企画指導専門職	佐々木真里子
		企画指導専門職	松本博路
		事業推進係	菅野凌太
運営補助		法人ボランティア	11名

（3）企画のポイント

今回、幼児が多様な運動プログラムを体験できるよう、「36の基本的な動き」を取り入れたプログラムを室内外に分けて企画した。1日目のスノーアドベンチャー（スノーシュー）体験&自由遊びでは、雪遊びをとおして、主として「体を移動する動き」を体験できるようにした。2日目は、親子秘密基地づくりでダンボールを使って、主として「物を操作する動き」を多く体験できるようにした。また、親のプログラムでは、幼児教育に造詣の深い、聖徳大学大学院教授の篠原孝子氏を招聘し、「遊びは学び」と題して講演をいただき、保護者への幼児教育の重要性を啓発する機会を設けた。同時に子どものプログラムでは、忍者ランドの遊具を設置し、「36の基本的な動き」を楽しみながら運動遊びにチャレンジできるような企画とした。

#### (4) 広報のポイント

事業のチラシを当施設ホームページに掲載し、事業の周知を図った。また、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の教育委員会や役場の保育園担当部署、幼稚園や保育園と報道機関へ開催要項とチラシを配付した。

#### (5) 運営のポイント

「スノーアドベンチャー体験」では、前半「スノーシュー体験」を行い、冬ならではの自然散策をしながら楽しめるよう林の中のコースを設定した。後半は、幼児期の運動プログラム「36の基本的な動き」を体験できるよう「そりすべり・雪遊び体験」を組み入れた。子どものプログラム「忍者大作戦」では、子ども達の自発的な遊びを引き出すことができるように、忍者ランドの遊具を使ったコースを設定するとともに、様々な運動遊びにチャレンジできるよう全ての遊具をクリアしたらもらえる「忍者皆伝書」を作成した。

また、2日目の「親子で秘密基地づくり」では、事前に親子で基地づくりの相談の時間を設けて関心を高め、親子でふれあい、語り合いながら進めるとともに、他の家族と協力してコミュニケーションを取りながら基地づくり活動ができるようグループ編成をした。

### 6 成果とその普及

「スノーアドベンチャー体験」では、スノーシューをはいて雪上を歩く体験や山林の中を散策しながら動物の足跡を探したり樹木観察をしたりするなど、自然体験活動の素晴らしさを味わうことができた。また、雪玉を作ったり投げたり、雪だるまを作って重ねたり転がしたり、雪遊びならではの様々な運動遊びに取り組むことができた。子どものプログラム「忍者大作戦」では、忍者ランドの遊具を設置したコースの自由遊びをとおして、冬場でも室内で「36の基本的な動き」を取り入れた運動遊びを体験させることができた。「親子で秘密基地づくり」では、参加者同士の交流や、あたたかい雰囲気の中で親子がふれあい、スキンシップを深めている姿が見られた。親のプログラム「遊びは学び」の講演では、講師の篠原教授から幼児期の体験活動の大切さや様々な環境の中でいかに体験の場を設定できるか、また、その機会を意図的に与えていくことが求められていることなどを学び、参加者は、子どもたちの学ぶ環境を整えていくことの大切さに気付くことができた。

この事業において忍者ランドの遊具を使ったプログラムを行ったことで、当施設における活動プログラムや幼稚園・保育園への出前事業の遊具として使用できることを体験していただくことができた。今後の忍者ランドを使った「36の基本的な動き」の普及に大いに役立った。

### 7 今後の課題

子どもプログラム「忍者大作戦」の時間設定を60分として実施したが、決まった動きを想定した遊具では、子ども達の発想の広がりが限られてしまうので、場の設定を工夫する必要がある。そして、親子でふれあいながら活動する時間設定についても検討していきたい。また、親のプログラムの「遊びは学び」の講義については、本事業参加者だけではなく、広く講演参加者を募るなど、より多くの親に学びの場を提供できるよう工夫していきたい。それから、「秘密基地づくり」では、子ども達の満足度を高める上で、作った後に十分な遊びの時間をとれるよう日程を考慮する必要性を感じた。



初めてのスノーシュー体験



忍者になって楽しく運動遊び



幼児教育の重要性を学ぶ親



親子で秘密基地づくり